

厚生病院だより

# ほほえみ

広報誌

第79号

2022 1. 1

## Topics

- 院長 新年の挨拶2022年
- 新しい診療の紹介  
[泌尿器科・放射線科]
- 研修医の紹介
- 患者満足度調査



PHOTO: 関口 詩織

基本理念

信頼され、心が通う地域医療



桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号  
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170  
URL: <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>



# 新年の挨拶

「勝ちに不思議な勝ちあり、  
負けに不思議な負けなし」

かとう ひろゆき  
院長 加藤 広行



皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の新年は、新型コロナウイルスの感染拡大（第3波）で、晴れやかな気持ちで新年をお迎えできた方は少なかったことでしょうか。昨年と比較して、今年の新年は、いかがお過ごしでしょうか。

さて、2021年を振り返りますと、新型コロナの世界的流行や、無観客の東京2020オリンピック・パラリンピック開催を初めとした激動の一年であったと思われまます。

新型コロナのパンデミックは2020年に始まり、3年にわたり世界各地で猛威を振るい、累計感染者は2億5千万人となり、死亡者数が500万人にも達しております。2021年末にはワクチン接種の普及により世界的に新規感染者が減少傾向となり、本邦も10月時点で170万人の累積感染者に1万8千人の死亡者を認めていますが、10月末には第5波が収束し新規感染者の急減がみられています。

しかし多くの専門家は第6波に備えて実効性のある感染症対策を継続し、更に3回目のワクチン接種体制の拡充、抗体カクテル療法の普及や経口治療薬の開発に傾注すべきと改めて警鐘を鳴らしております。今後も引き続きウィズコロナ対策に対し、市民ならびに医療従事者の全面的なご理解とご協力をお願いするとともに感謝申し上げる次第であります。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、それぞれのお立場でご苦労した関係者に心よりお見舞い申し上げますとともに、多くの感動と勇気を与えてくれましたアスリートに敬意と感謝を表したいと存じます。「オリンピックには魔物がいる」とよく言われるように、まさかの結末を迎える選手がいる中で、新たなスターが誕生する舞台でもあります。特に1年延期になった今大会は、多くの選手に与えた影響は計り知れないものがあつたでしょう。今回の五輪では、体操、水泳、バドミントン競技の番狂わせがあつた一方で、柔道、野球・ソフト、卓球、バスケットボール女子、フェンシング選手の活躍した雄姿は、鳥肌が立つほどの興奮と感動を与え、国民に多くの希望と夢を届けたものと思います。そして何よりも、新型コロナウイルスの感染が広がる中、大会の開催に尽力したボランティアらへの感謝の思い、「**オリンピックの舞台を作ってくれた人たちに感謝したい**」という選手たちのSNSへの投稿が、素晴らしく印象的であつたと改めて感銘いたしました。

野球の故野村監督の言葉に、「**勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし**」という名言がありますが、もともとは江戸時代後期の平戸藩主、松浦静山の言葉と伝えられています。この名言は、「負けるときには、必ず負けにつながる必然的な理由があるが、どうして勝ったのか思い当たらないという偶然に勝つこと（不思議な勝ち）がある」と言っています。勝つ場合でも何か負けにつながる要素があるから、勝負に勝つたとしても慢心すべきではなく、さらなる努力が必要であるというメッセージもあります。新型コロナの感染者が急減しても緩むことなく、感染症の終息に向けたロードマップに共通した教訓があるようにも感じています。

今年も職員一同、皆様のご期待にお応えできるよう迅速かつ丁寧な医療サービスを全力で提供して参りたいと存じます。そのためには地域の皆様方のご支援とご協力が必要不可欠でございます。何卒ご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



## 過活動膀胱に対する ボトックス注入療法

泌尿器科診療部長 **上井 崇智** (うえい たかし)

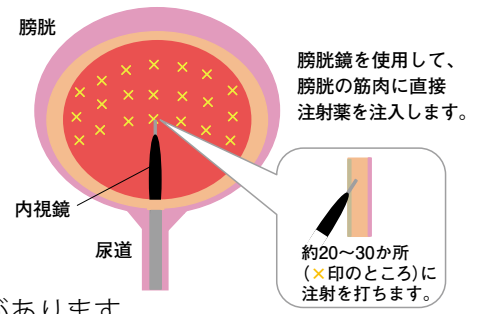
過活動膀胱とは、「尿意がこらえられない、またそれに伴い尿が漏れてしまう病気」です。治療はまず生活指導（水分の取り方、便秘改善、肥満解消）した上で薬物療法を行います。しかし通常の薬物療法を行なっても効果が無い、また薬剤の副作用のために治療を継続出来ない方がいます。そこで適応になるのが**“ボトックス（ボツリヌス毒素）注入療法”**です。

過活動膀胱の症状は膀胱の筋肉が異常な収縮を起こすことで起こります。筋肉の収縮を弱める作用があるボツリヌス毒素を尿道から内視鏡下に膀胱の筋肉に直接注射し、膀胱の異常収縮を抑えることで症状を改善させます。ボツリヌス菌を注射する訳ではありませんので感染する心配はありません。これにより過活動膀胱に伴う症状の改善が期待出来ます。

治療は1泊2日で、入院日に治療を行い、翌日に退院を予定します。副作用として排尿困難（10%）、尿路感染症（5%）、膀胱出血（3%）を認めることがあります。

治療効果は施術後2 - 3日で現れ、数ヶ月持続しますが、時間が経つにつれて薬の効果が弱くなっていきます。効果がなくなってきたら再投与が必要になります。全ての方に治療を行える訳ではありません。尿路感染症のある方や残尿の多い方、基礎疾患として神経疾患、呼吸器疾患、緑内障のある方、妊娠授乳中の方などは治療を行うことは出来ません。男性、女性問わず適応のある治療ではありますが、男性の場合前立腺肥大症による排尿障害が悪化する可能性があり、現在のところ女性に対してのみ治療を行う予定です。希望の方は泌尿器科を受診して頂き、治療の適応を相談しましょう。

ボトックス注入手技



## X線透視診断装置の導入

放射線科技術師長補佐 **林 かつまさ** (はやし かつまさ) TV室担当

新たに**X線透視診断装置（SONIALVISION G4）**を令和3年10月に導入しました。この装置は、最新の画像処理による鮮明な透視像と撮影画像の提供と車いすの患者さんでも乗り降りが楽な低く広い検査台や放射線被ばく線量を低く抑えるなど「人にやさしい」機能を搭載しています。

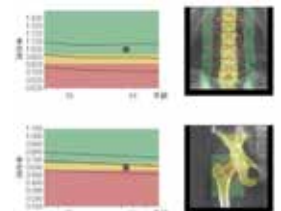


X線透視診断装置

最近では高齢化に伴う背骨の圧迫骨折や大腿骨の骨折が増えています。その原因として考えられる骨粗鬆症の診断に有用な骨密度測定が行えるのも特徴のひとつです。一般診療と日帰りドック（来年度より開始予定）から検査が受けられます。また、かかりつけの医療機関からのご依頼による検査も可能です。



胃検査画像



骨密度測定結果（腰椎・大腿骨）

骨密度測定結果（腰椎・大腿骨）

# 研 修 医 の 紹 介

はじめまして。群馬県出身で研修医1年目の吉川晟羽です。出身大学は群馬大学です。素晴らしい先生方や親切な職員の皆様のおかげで、桐生厚生総合病院で充実した研修ができることを幸せに思っています。あたたかい桐生の患者さんを日々診療させていただきながら、一日も早く群馬の医療に貢献できる医師に成長したいと思います。よろしくお願いいたします。  
吉川 晟羽(よしかわ なるは)



研修医一年目の谷口立樹です。出身は埼玉県で、群馬大学を卒業しました。学生時代は運動部や、小児糖尿病支援のサークルに参加しておりました。桐生厚生総合病院の雰囲気や、周産期医療センターに惹かれて研修先を決めました。現在は温かい同僚や先生方、スタッフの方々のお世話になりながら勉強をしております。まだまだ学ぶことは多いですが、少しずつ経験や知識を深めていき、患者さんに安全な医療を提供できるよう精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。  
谷口 立樹(たにぐち りき)

研修医1年目の土本優源と申します。出身は東京都で、出身大学は帝京大学です。群馬県に来るのは初めてでしたが、住めば都と言うように不便なく生活させていただいています。同僚の研修医も優しい方が多くすごい居心地の良い職場で研修生活を送っています。まだ、未熟者で医師としてできることの方が圧倒的に少ないですが桐生市の医療に貢献できるように精一杯頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。  
土本 優源(つちもと ゆうげん)

研修医1年目の児嶋賢と申します。出身は隣の栃木県で、大学は獨協医科大学卒業の栃木っ子です。ご縁がありまして、4月から桐生でお世話になることになりました。医師としてまだまだ未熟者ですが、精一杯努力し励んで行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。  
児嶋 賢(こじま けん)



こんにちは。桐生厚生総合病院で研修をさせていただいております、研修医1年目の倉島文治です。出身は東京で大学は群馬大学に通っておりました。趣味はテニスや映画鑑賞です。桐生の人々や地域の方々にも助けていただきながら日々研修をしております。至らぬ点も多いとは思いますが、誠心誠意努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。  
倉島 文治(くらしま ぶんじ)

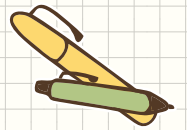


今年度は、1年次6名、2年次3名(うち1名は群馬大学所属)の計9名の研修医が当院で初期研修を行っています。

# 患者満足度調査結果報告

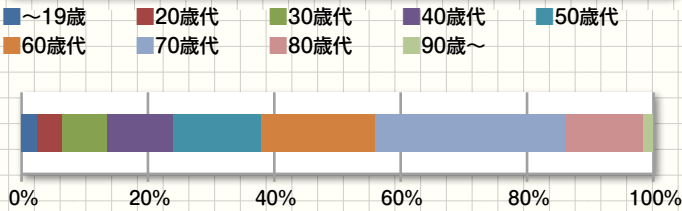
実施期間：令和3年9月13日(月)～9月30日(木)

アンケート回収枚数：総計1,282枚 (外来 1,107枚 入院 175枚)

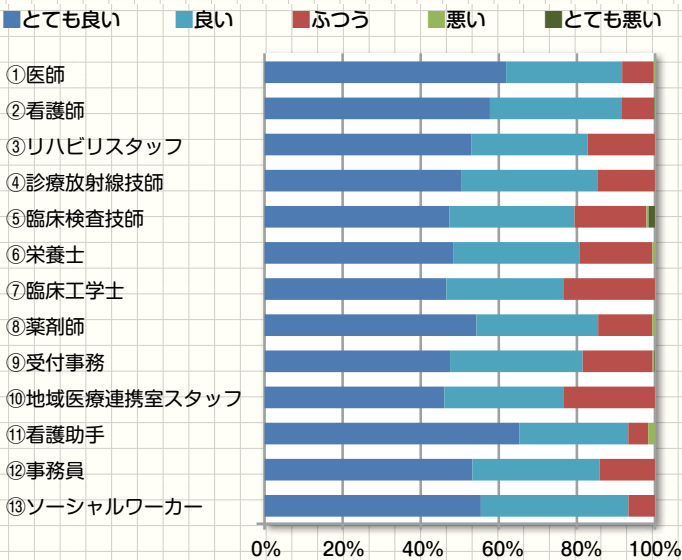


桐生厚生総合病院では、より良い患者サービスを皆様に提供できるよう、令和3年9月に患者満足度調査を実施しました。この調査にご協力いただいた患者さんやご家族の方、誠にありがとうございました。満足度調査結果について概要を報告いたします。医療ホスピタリティ推進委員会

## 回答いただいた患者さんの年齢

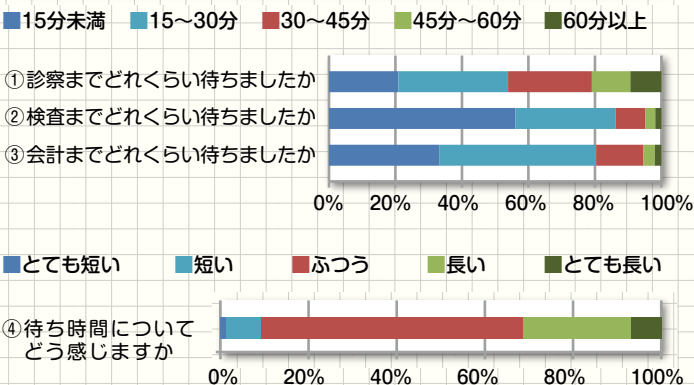


## 職員の対応、マナー、身だしなみについて



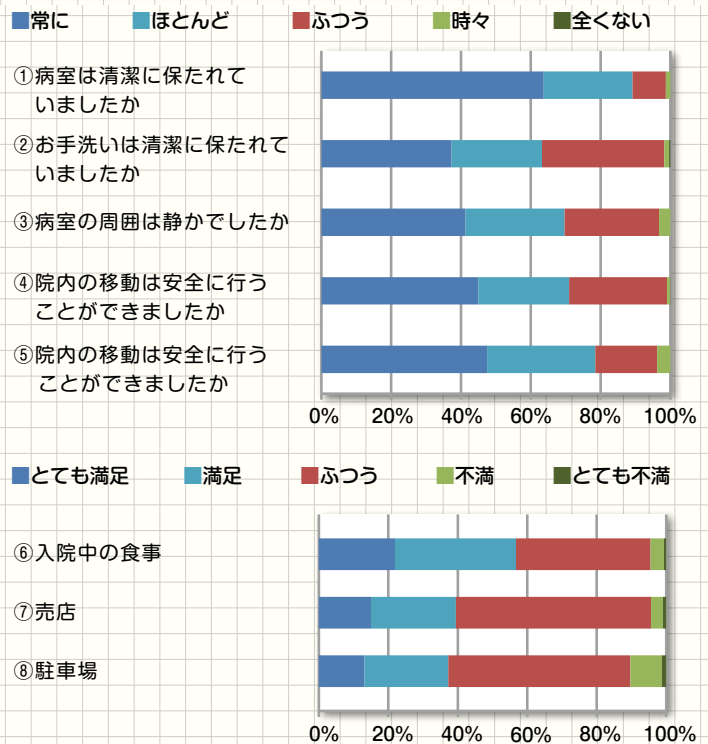
職員の対応・マナー・身だしなみについて、患者さんがどのように感じているか伺いました。結果はほとんどの職種で約8割の方より「とても良い」、「良い」という回答が得られました。今後もさらなる改善を目指して取り組んでいきたいと思っております。

## 外来の待ち時間について



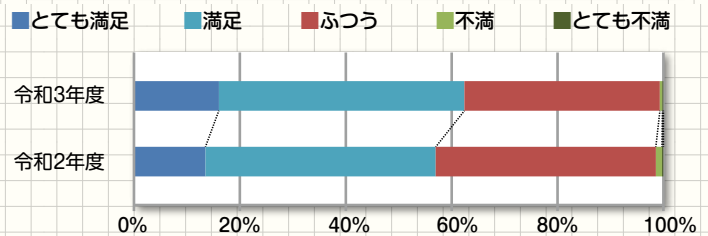
待ち時間について、昨年に引き続き、「短い」と感じている患者さんの割合は少ない結果でした。今後も待ち時間短縮のための工夫に取り組んでいきたいと思っております。

## 施設、環境について

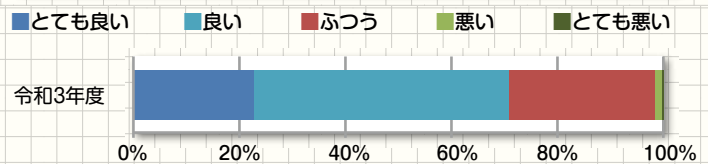


病院の老朽化及び駐車場に対するご意見が散見されました。特に老朽化に対する解決には時間を要しますが、その分運用面で創意工夫をし、さらなる療養環境の改善に努めます。

## 昨年と比べた病院の満足度



## 病院全体の印象



昨年と比べた病院の満足度の割合と病院全体の印象は改善の傾向がみられました。「不満」や「悪い」の印象についてのご意見を真摯に分析し、より満足いただける病院を目指します。